広告　企画・制作　LEXUS NEW TAKUMI PROJECT　実行委員会

聖地日光が育んだ杉材でシンプルに和を表現したウクレレ

高野 篤　栃木県／ギタークラフトマン

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」（主催：レクサス）は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

プロジェクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけ、くまモンの生みの親でもある小山薫堂氏を迎え、隈研吾氏（建築家／東京大学教授）、グエナエル・ニコラ氏（デザイナー）、清川あさみ氏（アーティスト）、生駒芳子氏（ファッション・ジャーナリスト／アート・プロデューサー）、下川一哉氏（意と匠研究所）らをサポートメンバーに発足。第一回となる今回は、全国47都道府県から地域推薦、一般公募合わせて52名の若き匠が選出された。

昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを重ね、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトづくりに取り組んだ。「本当に欲しくなるプロダクトか？」「地域のオリジナリティーはあるか？」「コンセプトやターゲットは明確か？」など、サポートメンバーから真剣なアドバイスが行われ、匠は約一年の試行錯誤を経てプロダクトを完成させた。

1月18日に都内で行われたイベントでは全国の百貨店、セレクトショップのバイヤー、メディア、デザイン関係者などに向けてプレゼンテーションを実施。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなるチャンスを手にした。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。日本のモノづくりを支え発展させ、そこから新しい価値を生み出そうとしているレクサスのブランド思想の1つである「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。栃木県選出の匠、ギタークラフトマン・高野篤さんの思いと、完成したプロダクトを紹介する。

エリア・コンサルティングにて

1月18日、プレゼンテーションにて

スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科卒。「料理の鉄人」や「ニューデザインパラダイス」、映画「おくりびと」など数多くのヒット作品の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。

新たな発想で挑む初のプロダクト

これまでギタークラフトマンとして多くのギター製作を手がけてきた高野さんにとって、ウクレレ製作は初挑戦。「この魅力的なプロジェクトのために、普段のワークを離れて新たな挑戦がしたいと思いました。ウクレレは、ボディサイズが小さく、持ち運びも楽で、手軽に奏でることができる楽器です。ウクレレならこれまで弦楽器に縁がなかった人にも手軽に手に取って音楽に親しんでもらえるのでは、と考えました」。ウクレレの音色はギターと比べて柔らかく響き、聴く人をリラックスさせる。約1年間という製作期間と販売価格も考慮した上での選択だった。

作品をプレゼンする高野さん

起源はメソポタミアともエジプトともいわれる弦楽器が、西へと進んで19世紀にハワイでウクレレとなった。東へと進んで、日本で琵琶や三味線となった。西の果ての弦楽器ウクレレを、東の果ての日本の木材で制作したらどんな音色になるのか。そんなロマンチックな期待感も、ウクレレ製作初挑戦へと背中を押した。

バイヤーと商談中の高野さん

聖地日光の杉と地域の伝統・技術

キックオフ・セッションでサポートメンバーの生駒氏から「地元ならではのプロダクトを」とアドバイスを受けた高野さんが着目したのは、栃木が誇る聖地日光の杉材だった。一般的にウクレレにはハワイ原産の木材ハワイアンコア、ギターには強度の高いマツ科の木材が多く用いられ、柔らかい杉材が使われることは滅多にない。どこで日光の杉材を楽器用に売ってもらえるのか、不安を胸に杉材を探し続ける高野さんに地域の建具屋や木材店の職人が力を貸した。彼らと親しくなるに連れ、林業の厳しい現実を知り「栃木の木材のすばらしさ、日本ならではの美意識や伝統を楽器で表現したい」との思いはますます強くなっていった。

完成プロダクト「Hand Crafted UKULELE “WASURA”」

地域の特性をプロダクトに

そして遂に手に入れたのが、日光東照宮の裏山で育った樹齢約４００年といわれる杉材。さらに、銘木「並木杉」として僅かな量が流通している日光杉並木の杉材も、サイド・バック材として用いることができた。同時に広がったのが、地域のクリエーターのネットワークだ。最初に決まったのは栃木弁で「遊び」「いたずら」という意味を込めた「WASURA」という商品名。デザイナーがロゴを作り、栃木に古くから伝わる烏山の手漉き和紙工房は楽器内部に貼るラベルを制作。手漉き和紙にオフセット印刷という難しい技術を用いて、印刷も地域の印刷職人が行った。

さくら市に建つ高野さんの工房「A.T.guitars」に生駒氏を迎えて行われたエリア・コンサルティング時の、「ウクレレの持つストーリーをわかりやすく伝えるべき」とのアドバイスから、木材が持つ背景やウクレレ「WASURA」への思いを伝えるパンフレットを制作。写真撮影からデザイン、編集は、地域のクリエーターが買って出た。

杉の木目を生かした塗装前のトップ。

完成した高野さんのプロダクト「Hand Crafted UKULELE “WASURA”」。その楽器には、高野さんの地域への思い、日本人ギタークラフトマンとしての誇り、そして地域の人たちの経験や技術がすべて込められている。ありのままの杉の木地を生かしたトップ、サイドが、和の伝統を醸し出す。そのシンプルなデザインもさることながら、ヘッドに日光東照宮陽明門にも施されている猿の顔に似た文様の「グリ紋」を入れ、見えない部分に「眠り猫」のスタンプを押印するなど、隠れた部分にまでこだわっているのも、いかにも高野さんらしい。

栃木産のウクレレを世界市場に

プレゼンテーション当日、バイヤーが注目したのは、そのやさしい音色だった。楽器を手に取り、まずそのクオリティーと杉材の美しさに目を奪われる。そして、４本の弦が奏でる柔らかな音の響きに心が奪われる。「プロジェクトに参加して、日本のものづくりの技術の高さと栃木のすばらしさを再確認しました。今後も人生を豊かにしてくれる日本らしい楽器を作りたい」と笑顔で話す高野さん。その目線の先にあるのは、日本を超えた世界市場。聖地日光の杉材で作ったウクレレで日本の木材のすばらしさを世界に発信していきたい。そんな思いを胸に、高野さんの挑戦はこれからも続く。

聖地日光の伝統と杉材に着目。プロダクトの素材に落とし込む。

高野 篤
栃木県／ギタークラフトマン

1979年栃木県さくら市喜連川生まれ。大学卒業後カナダへ留学。「Summit school of guitar building and repair」にてギター製作・修理を学ぶ。2005年にさくら市喜連川に、ギター製作工房A.T.guitarsを設立。2014年11月発売のリットーミュージック「アコースティックギターマガジン」に紹介される他、各種メディアでも紹介される。

LEXUS NEW TAKUMI PROJECT